

東日本大震災復興学生ボランティア
「大学生の参加経験に関するアンケート調査」
報告書

(2011年8月～9月 いわてGINGA-NETプロジェクトにおける調査結果)

平成 24 年 3 月 26 日

一般社団法人公立大学協会

東日本大震災復興学生ボランティア等に関する作業部会

東日本大震災復興学生ボランティア

「大学生の参加経験に関するアンケート調査」報告書 目次

東日本大震災復興学生ボランティア「大学生の参加経験に関するアンケート調査」 について（竹内正吉 主査（大阪府立大学 副学長））	1
「いわて GINGA-NET プロジェクト」への公立大学生の派遣について	2
アンケート調査結果（大阪府立大学地域連携研究機構まとめ）	3
アンケート調査結果より自由記述欄への公立大学生のコメント	22
アンケート調査票／調査協力依頼状	27

東日本大震災復興学生ボランティア「大学生の参加経験に関するアンケート調査」について

東日本大震災復興学生ボランティア等に関する作業部会
作業部会主査 竹内正吉 (大阪府立大学)

本作業部会は、学生ボランティアの派遣に関する支援を行うとともに、学生による復興支援活動に伴う教育的効果を検証し、その効果を今後の大学教育へ展開させることを目的として、活動に取り組んできました。

具体的には、昨年夏休み期間に岩手県立大学学生ボランティアセンターが主催した「いわて GINGA-NET プロジェクト」への学生ボランティア派遣事業を支援すると同時に、この事業に参加した学生にアンケート調査を行いました。趣旨は、ボランティア活動の経験を通して参加した大学生の意識及び能力がどのように変化したかを検証し、その結果から大学教育においてボランティア活動がもつ意味や正課の学習との関連性を明らかにすることでした。これまで、ボランティア活動に従事した学生に対して活動の前後に統一したアンケート調査を実施した事例はあまりありません。従って、1,018名の参加学生から得られた本調査結果は、学生ボランティア活動の意義を議論するための重要な資料となり得ると思われまます。

この「2011年度東日本大震災ボランティア大学生の参加経験に関するアンケート調査の結果」は、大阪府立大学地域連携研究機構「地域福祉研究センター」の教員による統計的手法による第一次分析です。本作業部会は、ボランティア活動に参加した学生の意欲及び能力が向上し、中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」に示される学士力の獲得に結び付いたというこの分析結果を踏まえ、活動に伴う様々な課題等について考察を加えながら、後に提言を行いたいと考えています。

なお、アンケート用紙の作成並びに調査結果の解析等の実務に関しては大阪府立大学地域連携研究機構「地域福祉研究センター」に、アンケート用紙の配布・回収は「いわて GINGA-NET プロジェクト」の学生諸君に依頼しました。御協力に関して深く感謝したいと存じます。

「いわて GINGA-NET プロジェクト」への公立大学生の派遣について

○ 派遣までの経緯

2011年3月11日の東日本大震災の発生を受け、公立大学協会として復興支援を考えるため、2011年6月8日に10大学27名の学長等の関係者が岩手県立大学に集い、「東日本大震災の復興支援についての懇談会」を開催した。

懇談会では、公立大学生のボランティア派遣に関する安全性や受け入れ体制などが協議されたが、岩手県立大学学生ボランティアセンターがボランティア受け入れを行う「いわて GINGA-NET プロジェクト」に公立大学協会として学生の派遣を支援することとし、「東日本大震災復興学生ボランティア等に関する作業部会」（主査：竹内正吉 大阪府立大学副学長）を設置して派遣方法等を検討した。

○ 「いわて GINGA-NET」プロジェクトについて

- ◆ 岩手県立大学学生ボランティアセンターが NPO 団体（ユースビジョン、さくらネット）と連携し、岩手県内被災地に学生ボランティアを受入れるプロジェクト。
- ◆ 住田町を宿泊拠点として、活動プログラム開発、ボランティア活動と地元ニーズのマッチングやボランティア宿泊サポートを行う。
- ◆ 多くの公立大学の学生が個人で同プロジェクトに参加したほか、青森県立保健大学、静岡県立大学、愛知県立大学、愛知県立芸術大学、三重県立看護大学、大阪府立大学、大阪市立大学、神戸市看護大学、島根県立大学、山口県立大学等では大学として同プロジェクトへの派遣を行った。
- ◆ 2011年夏期プロジェクトへの公立大学生の参加数は254名で全体の25%であった。（参加者アンケートより）

<2011年夏期プロジェクト>

活動期間	2011年8月3日から9月20日までの7週間
参加規模	1週間単位で毎週150名程度。合計1000名程度の参加者を募集。
活動地域	大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、住田町ほか（宿泊：住田町）
活動内容	仮設住宅でのコミュニティ支援（お茶っこサロン）、子ども向けの学習支援・遊び支援、お祭り等地域行事の開催支援等
企画支援	岩手県立大学／公立大学協会（本プロジェクトの企画運営に関する支援）

○ 岩手県立大学学生ボランティアセンターについて（同センターHPより）

2007年に発生した新潟県中越沖地震の復興支援ボランティアを契機に、翌2008年に学内にボランティアセンターを設立。現在、約50名のスタッフを主体に、地域からボランティア依頼の対応や、学生への活動紹介のほか、プロジェクトチーム方式で、地域の課題に対応した活動を行う。

2011 年度東日本大震災ボランティア大学生の参加経験に関するアンケート調査の結果

大阪府立大学
地域連携研究機構

1. 調査の概要

(1)実施主体

本調査の主体は、公立大学協会の「東日本大震災復興学生ボランティア等に関する作業部会（主査、竹内正吉）」である。

調査の実務は、大阪府立大学が行った。地域連携研究機構「地域福祉研究センター（センター長、山中徹）」を中心に、調査班を編成した。実務は、吉原雅昭、山野則子、山中京子、牧岡省吾、井手亘の 5 名を中心に行った。5 名はいずれも、大阪府立大学人間社会学部の教員である。

(2)調査の対象

2011 年夏に、「いわて GINGA-NET」が行ったボランティア活動に参加した学生全員を対象とした。この活動には、全国からさまざまな学生が参加した。ただし、期間中に「学生スタッフ」として活動した岩手県立大学の学生は、調査対象に含まれない。

(3)調査の目的

おもに、以下に示すとおりであった。

- ①この活動に参加した学生の属性、動機、活動内容などについて、事実を記録する
- ②参加者が活動において感じた困難を、把握する
- ③先行研究で用いられている「学士力」15 項目<注 1>に関する自己評価を、活動前と活動後の 2 回質問し、その変化を調べる。

(4)調査方法

自記式の質問紙調査とした。無記名である。調査手順は、以下の通りである。

- ①活動現場にて、活動前に、参加者に専用の封筒に入れた質問紙を配布し、調査への協力をお願いする。封筒の表紙に、調査への協力依頼文が印刷されている。
- ②活動前に、質問紙の前半部分に回答し、いったん封筒に入れて、各自が保管する。
- ③活動終了後、質問紙の後半部分に回答し、封筒に入れたものを現地スタッフが回収する。

(5)調査時期

2011 年 8 月から 9 月にかけて実施した。

(6)研究倫理

研究倫理に関する配慮事項をまとめ、大阪府立大学人間社会学部研究倫理委員会に審査を申請し、2011 年 8 月 4 日に認められた。

(7)調査票の配布数と回収数

配布数は、1044であった。回収数は、1018であった。回収率は、98%であった。

2. 単純集計の結果と考察

(1)回答者の基本属性

女性が61%、男性が38%であった。4年制大学が90%と多く、短期大学は4%、その他が5%である。学年は、3回生が最も多く39%であった。以下、2回生22%、1回生20%、4回生13%、大学院生3%である。大学の種別は、私立が67%、公立が25%、国立が7%であった。「学んでいる領域」で最も多かったのは、「社会科学・人文科学系」で41%だった。以下は「その他」38%、「医療系」14%、「自然科学・工学系」7%である。大学の所在地で最も多かったのは、近畿で40%だった。以下は、関東甲信越22%、東海21%、中国9%、北海道3%、四国3%、東北2%だった。

(2)ボランティア活動の経験など

今回以前にボランティア活動の経験がある者は51%、ない者が49%であった。参加前に事前学習を経験した者は54%、経験しなかった者は46%である。今回の活動に大学の教職員が「同行していた」と答えた者は48%、「同行していなかった」と答えた者は52%であった。

(3)参加動機

多かった動機は、順に「被災地の現状を知りたい」、「自分にとって有意義」、「被災地の方々を助きたい」であった。動機として「友人や教員に誘われた」と回答した者は、多くなかった。数値は、以下の通りである。

①被災地の方々を助きたい

「とても当てはまる」が64%、「まあまあ当てはまる」が33%であった。

②被災地の現状を知りたい

「とても当てはまる」が82%、「まあまあ当てはまる」が17%であった。

③自分にとって有意義

「とても当てはまる」が75%、「まあまあ当てはまる」が23%であった。

④友人や教員に誘われた

「とても当てはまる」が12%、「まあまあ当てはまる」が24%、「あまり当てはまらない」が25%、「全く当てはまらない」が39%であった。

(4)活動前の「学士力」に関する自己評価

活動前に、「学士力」15項目について、各自の自己評価を尋ねた。

肯定的な自己評価が80%以上と高かったのは、以下の4つである。高い順に記す。

- ・集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力
- ・自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力
- ・グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力

・人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力

肯定的な自己評価が 50%台と、そう高くなかった項目は、以下の 3 つであった。

- ・自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力
- ・自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力
- ・伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力

以上より、回答者は、協調性や主体性について自己評価が高い方が多かったこと。同時に、「伝える力」、ことに言語コミュニケーション力については、自己評価が低い方が半分近くいたこともわかった。数値は、以下の表 2-1 の通りである。

表 2-1 活動前の学士力（自己評価）

（単位：％）

項目		とてもある	まあまあある	あまりない	まったくない
(1)	人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力	12	69	18	
(2)	目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力	13	51	33	2
(3)	言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力	16	60	23	1
(4)	目標を達成するために解決すべき問題を見つける力	14	62	22	1
(5)	目標を達成するために方法やすべきことの順番を考えて準備する力	16	55	27	1
(6)	解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力	12	52	33	1
(7)	自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力	10	41	45	4
(8)	人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力	21	58	19	1
(9)	自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力	33	58	9	
(10)	グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力	18	65	17	
(11)	集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力	41	53	5	
(12)	自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力	15	56	28	1
(13)	学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力	15	59	25	1
(14)	自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力	9	44	42	4
(15)	伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力	8	46	42	3

(5) ボランティア活動の内容

仮設住宅等でのサロン活動、子どもの居場所支援（遊び相手等）は、ほとんどの回答者が経験した。現地のイベントの手伝いを経験した者は、約 2 割であった。児童生徒の学習支援、引っ越しの手伝いを経験された方は、非常に少なかった。数値は、以下の表 2-2 の通りである。

表 2-2 活動内容 (単位：%)

活動内容	経験した	経験せず
仮設住宅等でのサロン活動	96	3
子どもの居場所支援	90	8
児童生徒の学習支援	9	86
イベントの手伝い	22	74
引っ越しの手伝い	4	92

(6) 活動における困難

最も多かったのは「自分の能力という点で困難を感じた」であり、67%が当てはまると答えた。次いで多いのは「現地の方々との意思疎通に困難を感じた」で、44%が当てはまると答えた。詳しい数値は、以下の表 2-3 の通りである。

表 2-3 活動における困難 (単位：%)

	とても当てはまる	まあまあ当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
体力的に困難を感じた	2	19	46	32
活動以外の生活面で困難を感じた	4	22	45	28
現地の状況にショックを受け、精神的に困難を感じた	6	29	48	16
自分の能力という点で困難を感じた	22	43	27	7
他のボランティアとの意思疎通に困難を感じた	4	17	48	30
現地の方々との意思疎通に困難を感じた	6	38	42	13

「自分の能力という点で困難を感じた」は、強い意気込みで活動に参加したが、現場の状況はたいへん厳しく、「自らが役立てることは参加前に考えていたよりも少ない」と感じたのかもしれない。大学生らしい回答と、評価できる。回答者の多くは、大学の 1~3 回生である。能力不足を自覚した方々が、今後の学生生活で、各々の能力を伸ばすことに取り組まれば、よい変化が起きる可能性は高い。その時間は、十分にある。今回の活動で能力不足を感じたことは決して否定的な経験ではなく、「肯定的な変化へのきっかけ」になりうる。

「現地の方々との意思疎通に困難を感じた」は、2 つの理由を想像できる。彼らが現地で行った「仮設住宅等におけるサロン活動」、「子どもの居場所支援」は、いずれも被災者

とコミュニケーションすることが重要な中身である。深刻な災害を経験し、日々の暮らしに多くの困難を抱える被災者と、「どのように話せばよいのか」は、とても難しい。よって、実際に話す際にさまざまな困難を感じた可能性がある。もうひとつは、回答者の属性である。回答者の大部分は、東北地方の大学生ではない。近畿、関東甲信越、東海地方等の大学に所属する学生が、岩手県の住民と言語コミュニケーションを行なう際に困難を感じることは、起こりうる。

(7)活動後の「学士力」に関する自己評価

活動後に、活動前と全く同じ質問を用いて、「学士力」15項目を尋ねた。その結果は、以下に示す表2-4の通りである。

表2-4 活動後の学士力（自己評価）

（単位：％）

項目		とてもある	まあまあある	あまりない	まったくない
(1)	人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力	20	68	10	1
(2)	目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力	18	57	22	2
(3)	言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力	19	60	19	1
(4)	目標を達成するために解決すべき問題を見つける力	18	62	18	
(5)	目標を達成するために方法やすべきことの順番を考えて準備する力	17	56	24	1
(6)	解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力	17	57	23	1
(7)	自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力	12	50	33	2
(8)	人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力	26	55	17	1
(9)	自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力	38	52	8	1
(10)	グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力	26	59	13	
(11)	集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力	43	47	7	1
(12)	自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力	14	57	26	1
(13)	学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力	23	55	19	2
(14)	自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力	12	54	29	2
(15)	伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力	11	56	28	3

(8) 「学士力」自己評価の、活動前と活動後の比較

多くの項目で、肯定的評価の増加がみられた。肯定的評価が増加したものが 12 項目、変化なしが 1 項目、肯定的評価が減ったものが 2 項目である。増えた項目における増加量はかなり大きかったが、減った項目における減少量は、ごくわずかであった。

肯定的評価が 10%以上増えた項目は、5 つあった。以下、高い順に記す。

- ・自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力
- ・伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力
- ・目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力
- ・自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力
- ・解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力

これら 5 つの変化をより詳細に見ると、2 つに分類できる。一方は、能力が「とてもある」、「まあまあある」の両方が、ほぼ同じぐらい増加した項目である。これを、仮に「増加パターンA」と名づける。「目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力」、「解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力」の 2 項目が、これにあたる。残る 3 項目においては、「まあまあある」の増加が顕著であり、「とてもある」の増加は相対的に小さかった。これを、「増加パターンB」と名づける。

ところで、「増加パターンA」に該当する 2 項目は、もともと肯定的評価が高い傾向があった (64%と 74%)。逆に、「増加パターンB」に該当する 3 項目は、活動前の肯定的評価は 51~54%と最も低かった。いずれも、否定的評価をした者が半分近くを占めた項目であった。このように見ると、増加パターンAでは、もともと肯定的評価が高かったにもかかわらず活動後もかなりの伸びがあり、増加パターンBでは、活動後に否定的評価が肯定的評価に変化したことが大きかったと考えられる。

肯定的評価がわずかに減少した項目は、以下の 2 つであった。

- ・集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力
- ・自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力

これらはいずれも、活動前に肯定的評価が最も高かった 2 つである (94%と 91%)。

なお、すでに述べた以外に、活動前に肯定的評価が高く、かつ、活動後に「10%近く (7%)」増加した項目が 2 つあった。「人から言われるのではなく、やらないといけなことを見つけて、自分から進んで取り組む力」と、「学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力」である。これら 2 項目の伸びにも、注目すべきであろう。

(9) 「学士力」自己評価の変化に関する若干の考察

活動前に肯定的な自己評価が高いとは言えず、否定的評価が半分近かった「他者に伝える力」3 項目すべてにおいて、活動後は肯定的評価がかなり増え、否定的評価は大きく減少していた。かなり、劇的な変化である。回答者の多くは、被災者との言語コミュニケーションに難しさを感じつつ、毎日、コミュニケーションを続けた。日々の活動の準備や振り返りの際にも、仲間や関係者と話し合ったと想像する。全く初対面の相手とのコミュニケーションが非常に多く、困難なことも多かったであろう。しかしながら、今回の経験に

よって、彼らの「他者に伝える力」に関する自己評価は、かなり改善した。今回の活動において、回答者はある程度「手応え」を感じたと考えられる。

彼らのほとんどが経験した活動内容は、仮設住宅地域における「お茶っこサロン」と「子どもの遊び相手」であった。これらは、「ある世帯の引っ越し手伝い」のように目的や作業内容が明確ではない。準備段階において、そして毎日活動しながら、問題を見つけ出し、それらを解決する方法を考えて実施せねばならない。毎日住民と接し、住民とコミュニケーションしながら、得た情報をもとに問題を見つけ出し、活動仲間と話し合い、必要な場合には関係者とも協議して、問題解決に取り組むことが求められた、と考えられる。この結果、「解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力」、「人から言われるのではなく、やらないといけないうことを見つけて、自分から進んで取り組む力」、「目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力」に関する自己評価に、かなりの上昇が生じた。実際に、朝日新聞が報道した、この活動に参加した龍谷大学の学生の活動報告によれば、彼らは、現場で住民のニーズを感じたり、考えたり、調べたり、住民の声を聴いたりして、活動内容を再検討し、自分たちの力で柔軟に変化させていた。「学生主体で企画し、地域に新しいイベントを仕掛けた」者さえいた<注 2>。

なお、「学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力」に関する自己評価が向上した理由としては、回答者に大学 3~4 回生が多かった（小計 52%）こととの関係が考えられる。

注

<注 1>例えば、木村二郎、難波美都里編(2009)『こんなものほしかってん』桃山学院大学・大阪府立大学・大阪大谷大学・帝塚山学院大学・羽衣国際大学・プール学院大学キャリア教育・FD委員会（文部科学省平成 20 年度戦略的大学連携支援事業〔実践力のある地域人材の輩出〕プロジェクト）、34 ページ。

<注 2>「大学生の見た仮設生活」朝日新聞、2011 年 10 月 20 日（大阪堺泉州版）

3. 「学士力」項目の因子分析

本節では、今回の調査結果に基づき「学士力」項目が測定している内容について分析を行う。分析方法としては因子分析を行い、そこから得られた因子に対して因子負荷量の大きい項目から因子の内容について解釈を行う。なお、本説の分析は統計分析パッケージ SAS を用いて行った。

3.1. 因子分析結果

分析対象とした「学士力」項目はボランティア活動前に回答した 15 項目、(1)から(15)を用いた。主因子法、プロマックス回転による因子分析を行った。主因子法による最初の分析の結果、固有値 1 以上の因子が 4 個であったので 4 因子解を選択し、プロマックス回転によって単純構造により近くなるように因子を回転させた。その結果得られた因子パターンと共通性を表 3.1、因子間相関を表 3.2 に示す。

表 3.1 「学士力」項目の因子パターン(プロマックス回転)

	第 1 因子 コミュニケーション力	第 2 因子 計画力	第 3 因子 積極性	第 4 因子 協調性	共通性 その他(想像力)
項目 (14)	.882	.050	-.021	-.019	.779
項目 (7)	.868	.065	-.022	-.065	.742
項目 (15)	.850	.146	-.087	.041	.775
項目 (12)	.057	.706	-.133	.176	.566
項目 (5)	.115	.688	.032	-.011	.544
項目 (4)	.004	.561	.413	-.137	.562
項目 (6)	.203	.494	.275	-.054	.518
項目 (13)	.044	.344	.296	.195	.396
項目 (1)	-.122	.118	.791	-.042	.596
項目 (2)	.130	-.165	.723	.100	.622
項目 (3)	-.132	.329	.602	.059	.535
項目 (9)	-.063	-.015	.072	.805	.654
項目 (11)	-.137	.321	-.199	.749	.646
項目 (8)	.281	-.279	.228	.581	.625
項目 (10)	.122	.136	.203	.453	.448

表 3.1 の数値は因子負荷量であり各項目と因子の間の偏回帰係数にあたる値である。この値が高いことは項目の変動がその因子の影響を強く受けること、および、項目がその因子の指標になることを示している。共通性は項目の変動が 4 つの因子すべてによって説明される大きさを示している。

表3.2 「学士力」項目の因子間相関

	第1因子 コミュニケーション力	第2因子 計画力	第3因子 積極性	第4因子 協調性
第1因子	1.0	0.289	0.436	0.304
第2因子		1.0	0.279	0.244
第3因子			1.0	0.312
第4因子				1.0

3.2. 因子の解釈

プロマックス回転の結果得られた因子の解釈について、まず表 3.2 の因子間相関を見ると、.244～.436 程度であり大きな相関はなかった。因子の解釈において因子間相関に特に注目する必要はないと考えられる。

表 3.1 の因子負荷量を見ると、第1 因子は以下の3 項目に対して因子負荷量が高かった。いずれも自分の意見や考え方を伝える力に関連した項目であるので、第1 因子をコミュニケーション力と名づけた。

- (14) 自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力
- (7) 自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力
- (15) 伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力

第 2 因子は以下の 3 項目に対して因子負荷量が高かった。ただし項目(4)は因子負荷量が.561 でありそれほど高いとはいえず、また第 3 因子との因子負荷量もやや大きい.413 であった。これらの項目は行動の前段階で必要な準備にかかわる項目であるので、第 2 因子を計画力と名づけた。

- (12) 自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力
- (5) 目標を達成するための方法やすべきことの順番を考えて準備する力
- (4) 目標を達成するために解決すべき問題を見つける力

第 3 因子は以下の 3 項目に対して因子負荷量が高かった。いずれも自ら積極的に関わっていく力に関連する項目であるので、第 3 因子を積極性と名づけた。

- (1) 人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力
- (2) 目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力
- (3) 言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力

第 4 因子は以下の 3 項目に対して因子負荷量が高かった。ただし項目(8)の因子負荷量は.581 でありそれほど高いとはいえなかった。これらの項目は、自らすすんで他者との関係を維持、発展させる力に関わる項目であるので、第 4 因子を協調性と名づけた。

- (9) 自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力
- (11) 集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力
- (8) 人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力

なお、項目(13)「学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事

と結びつけて考える力」、項目(10)「グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力」はどの因子とも特に大きな因子負荷量をもたず共通性も小さいことから、この4つの因子のいずれとも関連の小さい独自の力を反映する項目と考えることができる。

3.3. 本節のまとめ

本節では「学士力」項目についてその内容を因子分析によって検討した。その結果4つの因子が抽出され、その内容を因子負荷量の高い項目の内容から解釈した結果、「コミュニケーション力」、「計画力」、「積極性」、「協調性」と名づけることができた。「学士力」項目は学生の潜在的な能力を調べる項目であるが、今回の分析の結果からそれが上記の4つからなるという可能性が示唆されたといえる。

なお、この因子分析の結果を考える上では、これが今回ボランティアに参加した学生の回答による項目間の関係から計算されたものであることに留意する必要がある。ボランティアに参加しようという意志をもっていたこれらの学生は、他の学生とは異なった能力の傾向をもっていた可能性もある。参加しなかった学生や参加できなかった学生を含めた回答から計算した場合、異なった因子が抽出される可能性もある。「学士力」項目の示す内容を解釈するためには、今後も繰り返し分析を行って確認をしていく必要がある。

4. 「学士力」項目得点に影響を与える要因は何か

本節では、(1)どのような動機づけを持つ人で「学士力」項目得点が高いのか、(2)活動による「学士力」得点の上昇を促進あるいは阻害する要因は何か、について検討する。具体的には、ボランティア活動に参加した理由および活動で感じた困難が「学士力」項目得点に影響を与えているという因果関係を想定し、重回帰分析を用いた検討を行う。さらに、事前学習機会の有無が「学士力」項目得点の変化に与える影響についても検討する。

本節における分析は、すべて統計解析ソフトウェア R(R Development Core Team, 2005)を用いて行い、危険率が 5%未満であった場合を有意とした。前節では「学士力」項目を因子分析の結果に基づいて分類したが、予備的な分析において、因子の指標項目の得点を合算して従属変数とすると独立変数の効果が検出されにくいことが分かったため、本節では各「学士力」項目の得点をそのまま従属変数として分析することにした。

4.1. 活動に参加した理由と活動前「学士力」項目得点の関係

どのような動機づけを持つ人の「学士力」項目得点が高いのかを検討するために、活動に参加した理由を独立変数、活動前「学士力」項目得点を従属変数とした重回帰分析を行った。分析結果を表 4.1 に示す。

重回帰分析の R 自乗値は全体に低く、最大であった「学士力」項目(2)でも 0.031 であった。これは重回帰分析で得られた回帰式がデータを説明する力がきわめて弱いことを示す。したがって、以下の分析でみられた有意な効果は「学士力」項目得点の変動のごくわずかしか説明せず、回答者全員に対して一般化することができないことに留意する必要がある。参加理由に対する評価値も「学士力」項目得点も、各質問項目に当てはまる度合いが高いほど低い値をとる。そのため、 β (標準偏回帰係数) が正の側に大きな値を取るほど、参加理由に対して当てはまる度合いが能力に対する評価を高める効果をもつことを意味する。

以下、4 項目の参加理由について当てはまる度合いが「学士力」項目得点に与える影響についてみていく。

参加理由(1)「被災地の方々を助けたいと考えたから」は、すべての「学士力」項目に対して有意な正の効果を与えていた。

参加理由(2)「実際に現地に行って、被災地の現状を知りたいと考えたから」は、「学士力」項目(6)「解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力」のみについて有意な正の効果を与えていた。

表 4.1 参加理由を独立変数、活動前の「学士力」得点を従属変数とした重回帰分析。 β は標準偏回帰係数。

a3_1(事前:自ら進んで取り組む力)
a3_2(事前:一緒に行動する力)
a3_3(事前:粘り強く行動する力)
a3_4(事前:問題を見つける力)
a3_5(事前:考えて準備する力)

	a3_1	a3_2	a3_3	a3_4	a3_5
β a1_1(助けたい)	0.122 ***	0.115 ***	0.132 ***	0.083 *	0.077 *
a1_2(現状を知りたい)	0.054	0.022	0.011	0.041	0.054
a1_3(有意義)	0.021	0.077 *	0.040	0.034	0.009
a1_4(誘われたから)	-0.071 *	0.063 *	-0.059 .	0.007	0.054 .
寄与率(R ²)	0.027	0.031	0.025	0.013	0.014
自由度	1008	1005	1006	1000	1001

*** p<.0001, ** p<0.01, * p<0.05

a3_6(事前:工夫して考える力)
a3_7(事前:理解してもらえように伝える力)
a3_8(事前:きちんと理解して聞く力)
a3_9(事前:違う考えや立場も尊重して理解しようとする力)
a3_10(事前:どんな役割をすればよいのかを理解する力)

	a3_6	a3_7	a3_8	a3_9	a3_10
β a1_1(助けたい)	0.129 ***	0.070 *	0.116 ***	0.132 ***	0.105 *
a1_2(現状を知りたい)	0.067 *	0.027	0.008	-0.020	-0.003
a1_3(有意義)	0.011	0.030	0.077 *	0.043	0.010
a1_4(誘われたから)	-0.018	0.115 ***	0.019	-0.066 *	0.024 .
寄与率(R ²)	0.025	0.027	0.025	0.024	0.012
自由度	1000	1005	1006	1007	1005

*** p<.0001, ** p<0.01, * p<0.05

a3_11(事前:規則やルールを守って適切に行動する力)
a3_12(事前:探したり、選びだしたりする力)
a3_13(事前:仕事と結びつけて考える力)
a3_14(事前:相手が納得するように伝える力)
a3_15(事前:わかりやすいように工夫して伝える力)

	a3_11	a3_12	a3_13	a3_14	a3_15
β a1_1(助けたい)	0.123 *	0.077 *	0.127 ***	0.077 *	0.070 *
a1_2(現状を知りたい)	-0.015	-0.044	-0.045	0.040	0.026
a1_3(有意義)	0.040	0.032	0.043	0.022	0.040
a1_4(誘われたから)	-0.023 .	0.003	0.003	0.073 *	0.043
寄与率(R ²)	0.018	0.008	0.019	0.016	0.012
自由度	1006	1006	1005	1005	1004

*** p<.0001, ** p<0.01, * p<0.05

参加理由(3)「この活動に参加することは自分にとって有意義だと考えたから。」は、「学士力」項目(2)「目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力」と「学士力」項目(8)「人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力」について有意な正の効果を与えていた。

参加理由(4)「友人・知人あるいは教員に誘われたから」は、「学士力」項目(1)「人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力」と「学士力」項目(9)「自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力」について有意な負の効果、「学士力」項目(2)「目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力」、「学士力」項目(7)「自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力」、「学士力」項目(14)「自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力」に対して正の効果を与えていた。

参加理由(1)-(3)について当てはまる度合いは、活動に対する動機付けの強さを表すと考えられ、「学士力」項目を向上させる方向の影響力が確認された。一方、参加理由(4)は協調性の高さを反映していると考えられ、「学士力」項目の種類によって相反する効果が認められた。

4.2.活動において感じた困難と活動後「学士力」項目得点の関係

活動において感じた困難が活動後の「学士力」項目得点に与える影響について検討するために、活動において感じた困難を独立変数、活動後「学士力」項目得点を従属変数とした重回帰分析を行った。分析結果を表 4.2 に示す。

上と同様、重回帰分析の R 自乗値は全体に低く、最大であった「学士力」項目(8)でも 0.050 であった。したがって 4.1 の分析と同様、有意な偏回帰係数は「学士力」項目得点の変動のごくわずかししか説明せず、回答者全員に対して一般化することができないことに留意する必要がある。

困難に対する評価値も「学士力」項目得点も、各質問項目に当てはまる度合いが高いほど低い値をとる。そのため、 β （標準偏回帰係数）が負の側に大きな値を取るほど、困難を感じた度合いが能力に対する評価を低下させる効果をもつことを意味する。

以下、6 項目の困難について当てはまる度合いが「学士力」項目得点に与える影響についてみていく。

困難(1)「体力的に困難を感じた」と困難(2)「活動以外の生活面で困難を感じた」は、いずれの「学士力」項目に対しても有意な効果を与えていなかった。

表 4.2 活動における困難を独立変数、活動後の「学士力」得点を従属変数とした重回帰分析。βは標準偏回帰係数

- b3_1(事後:自ら進んで取り組む力)
- b3_2(事後:一緒に行動する力)
- b3_3(事後:粘り強く行動する力)
- b3_4(事後:問題を見つける力)
- b3_5(事後:考えて準備する力)

	b3_1	b3_2	b3_3	b3_4	b3_5	
β	b1_1(体力)	-0.028	-0.010	-0.016	-0.024	0.005
	b1_2(生活面)	-0.002	-0.015	-0.042	-0.026	0.053
	b1_3(精神)	0.061 .	0.088 *	0.117 ***	0.054	0.016
	b1_4(能力)	-0.084 *	-0.124 ***	-0.082 *	-0.126 ***	-0.138 ***
	b1_5(意思疎通-仲間)	-0.075 *	-0.113 ***	-0.044	-0.057 .	-0.045
	b1_6(意思疎通-現地)	-0.046	-0.076 *	-0.115 **	-0.078 *	-0.028
寄与率(R ²)	0.022	0.049	0.036	0.038	0.026	
自由度	983	984	984	981	982	

*** p<.0001, ** p<0.01, * p<0.05

- b3_6(事後:工夫して考える力)
- b3_7(事後:理解してもらえるように伝える力)
- b3_8(事後:きちんと理解して聞く力)
- b3_9(事後:違う考えや立場も尊重して理解しようとする力)
- b3_10(事後:どんな役割をすればよいのかを理解する力)

	b3_6	b3_7	b3_8	b3_9	b3_10	
β	b1_1(体力)	-0.028	0.031	-0.030	0.022	0.009
	b1_2(生活面)	-0.006	-0.013	0.013	-0.002	-0.061 .
	b1_3(精神)	0.019	0.054	0.116 ***	0.078 *	0.057
	b1_4(能力)	-0.109 **	-0.148 ***	-0.060 .	0.002	-0.107 **
	b1_5(意思疎通-仲間)	-0.025	-0.015	-0.090 **	-0.100 **	-0.026
	b1_6(意思疎通-現地)	-0.035	-0.057	-0.150 ***	-0.073 *	-0.121 ***
寄与率(R ²)	0.019	0.028	0.050	0.022	0.040	
自由度	977	984	983	980	983	

*** p<.0001, ** p<0.01, * p<0.05

- b3_11(事後:規則やルールを守って適切に行動する力)
- b3_12(事後:探したり、選びだしたりする力)
- b3_13(事後:仕事と結びつけて考える力)
- b3_14(事後:相手が納得するように伝える力)
- b3_15(事後:わかりやすいように工夫して伝える力)

	b3_11	b3_12	b3_13	b3_14	b3_15	
β	b1_1(体力)	-0.032	0.047	0.006	0.010	-0.009
	b1_2(生活面)	-0.046	-0.034	0.000	-0.040	-0.018
	b1_3(精神)	0.004	0.016	0.115 **	0.102 **	0.074 *
	b1_4(能力)	0.029	-0.124 ***	-0.147 ***	-0.202 ***	-0.185 ***
	b1_5(意思疎通-仲間)	-0.030	-0.057	-0.058 .	-0.034	-0.026
	b1_6(意思疎通-現地)	-0.061 .	0.000	-0.032	-0.066 .	-0.092 **
寄与率(R ²)	0.011	0.023	0.032	0.055	0.054	
自由度	983	976	982	982	982	

*** p<.0001, ** p<0.01, * p<0.05

一方、困難(3)「現地の状況にショックを受け、精神的に困難を感じた」は、「学士力」項目(2)「目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力」、(3)「言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力」、(8)「人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力」(9)「自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力」、(13)「学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力」(14)「自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力」(15)「伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力」に対して有意な正の影響を与えていた。これらの効果に関しては、精神的な困難が「学士力」得点を高めたと言うより、本人の持つ感受性の強さが「学士力」項目と困難(3)の両方を高めたという解釈の方が妥当であろう。

困難(4)「自分の能力という点で困難を感じた」は、「学士力」項目(8)「人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力」(9)「自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力」(11)「集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力」以外のすべての項目に対して有意な負の影響を与えていた。これは、自分の能力に対して感じた困難さが、能力の評定値である「学士力」項目に負の影響を与えたものと思われる。

さらに、困難(5)「他のボランティアとの意思疎通に困難を感じた」は、「学士力」項目(1)「人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力」、(2)「目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力」、(8)「人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力」、(9)「自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力」に負の影響を与えていた。項目(2)、(8)、(9)に関しては、仲間である他のボランティアとの意思疎通の困難が、コミュニケーション能力に関連する「学士力」項目に負の影響を与えたものと思われる。

さらに、困難(6)「現地の方々との意思疎通に困難を感じた」は、「学士力」項目(2)「目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力」、(3)「言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力」、(4)「目標を達成するために解決すべき問題を見つける力」、(8)「人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力」(9)「自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力」、(10)「グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力」(15)「伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力」に負の影響を与えていた。困難(6)の影響は、困難(5)よりも広範囲にわたっていた。

4.3.活動に参加した理由および活動において感じた困難と、活動前後の「学士力」項目得点の変化量の関係

活動に参加した理由および活動において感じた困難が活動前後の「学士力」項目得点の変化に与える影響について検討するために、活動に参加した理由および活動において感じた困難を独立変数、活動後の「学士力」項目得点から活動前の「学士力」項目得点を引いた値を従属変数として重回帰分析を行った。分析結果を表 4.3 に示す。重回帰分析の R 自乗値は全体に低く、最大であった「学士力」項目(8)でも 0.020 であった。したがってこの

分析においても、有意な偏回帰係数は「学士力」項目得点の変動のごくわずかし説明せず、回答者全員に対して一般化することができないことに留意する必要がある。

標準偏回帰係数が正の値を取るとき、独立変数は「学士力」項目得点を高める効果を与え、負の場合は逆の効果を与えると解釈できる。「学士力」項目得点の変化量に有意な影響を与えていたのは困難(3)(4)(6)であり、他の困難は有意な効果を与えていなかった。また参加理由による有意な効果は見られなかった。

困難(3)「現地の状況にショックを受け、精神的に困難を感じた」は、「学士力」項目(1)「人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力」、(11)「集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力」に有意な負の影響を与えていた。活動前後の「学士力」得点を別々に分析した際には「学士力」項目(11)への有意な効果は活動理由(1)を除き見られなかったのに対して、活動前後の変化量に対して有意な効果が認められたことは興味深い。困難(3)は主体的に行動することや規律を守って行動することに対する意欲を低下させたと解釈できる。

困難(4)「自分の能力という点で困難を感じた」は、「学士力」項目(6)「解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力」に有意な正の影響を与えていた。「学士力」項目得点を向上させる効果が見られたのはここだけである。自らの能力に困難を感じるにより、解決方法を工夫して考えることを学んだ学生が一定程度いたものと考えられる。

表 4.3 参加理由と活動における困難を独立変数、活動前後での「学士力」得点の変化を従属変数とした重回帰分析。βは標準偏回帰係数。

d3.1(事後-事前:自ら進んで取り組む力)
d3.2(事後-事前:一緒に行動する力)
d3.3(事後-事前:粘り強く行動する力)
d3.4(事後-事前:問題を見つける力)
d3.5(事後-事前:考えて準備する力)

	d3_1	d3_2	d3_3	d3_4	d3_5	
β	a1.1(助けたい)	-0.045	-0.036	-0.009	0.041	0.051
	a1.2(現状を知りたい)	-0.003	0.043	0.031	-0.017	-0.007
	a1.3(有意義)	0.025	-0.050	-0.002	-0.027	-0.002
	a1.4(誘われたから)	0.044	-0.041	0.051	-0.003	-0.034
	b1.1(体力)	0.035	0.003	0.003	0.032	0.026
	b1.2(生活面)	0.053	0.050	0.006	-0.012	0.032
	b1.3(精神)	-0.091 *	0.016	0.016	0.009	-0.022
	b1.4(能力)	0.017	0.005	0.028	0.044	0.000
	b1.5(意思疎通-仲間)	-0.047	-0.051	0.006	-0.046	-0.020
	b1.6(意思疎通-現地)	-0.001	-0.046	-0.103 **	-0.090 *	-0.022
寄与率(R ²)	0.015	0.013	0.012	0.014	0.006	
自由度	975	973	974	966	969	

*** p<.0001, ** p<0.01, * p<0.05

d3.6(事後-事前:工夫して考える力)
d3.7(事後-事前:理解してもらえるように伝える力)
d3.8(事後-事前:きちんと理解して聞く力)
d3.9(事後-事前:違う考えや立場も尊重して理解しようとする力)
d3.10(事後-事前:どんな役割をすればよいのかを理解する力)

	d3_6	d3_7	d3_8	d3_9	d3_10	
β	a1.1(助けたい)	-0.007	-0.009	-0.055	-0.020	0.011
	a1.2(現状を知りたい)	-0.062 .	-0.025	0.036	0.008	-0.037
	a1.3(有意義)	0.002	0.024	0.014	0.037	0.049
	a1.4(誘われたから)	0.024	-0.056 .	0.034	0.054 .	0.000
	b1.1(体力)	0.019	0.007	-0.030	0.019	0.017
	b1.2(生活面)	-0.007	0.042	0.038	0.060 .	-0.046
	b1.3(精神)	-0.049	-0.010	0.043	0.043	0.001
	b1.4(能力)	0.087 *	0.026	-0.038	-0.037	-0.031
	b1.5(意思疎通-仲間)	-0.037	-0.004	0.000	-0.032	0.012
	b1.6(意思疎通-現地)	-0.019	-0.062 .	-0.111 **	-0.053	-0.102 **
寄与率(R ²)	0.012	0.008	0.020	0.016	0.018	
自由度	962	974	973	971	973	

*** p<.0001, ** p<0.01, * p<0.05

d3.11(事後-事前:規則やルールを守って適切に行動する力)
d3.12(事後-事前:探したり、選びだしたりする力)
d3.13(事後-事前:仕事と結びつけて考える力)
d3.14(事後-事前:相手が納得するように伝える力)
d3.15(事後-事前:わかりやすいように工夫して伝える力)

	d3_11	d3_12	d3_13	d3_14	d3_15	
β	a1.1(助けたい)	-0.013	0.041	0.009	0.006	0.018
	a1.2(現状を知りたい)	0.002	0.000	0.019	-0.028	0.014
	a1.3(有意義)	0.036	0.006	0.054	0.029	0.001
	a1.4(誘われたから)	0.048	0.008	0.058 .	-0.018	0.027
	b1.1(体力)	-0.045	-0.013	0.026	0.009	-0.027
	b1.2(生活面)	-0.007	-0.011	0.056	0.004	0.010
	b1.3(精神)	-0.072 *	-0.011	-0.011	0.020	0.016
	b1.4(能力)	0.048	-0.009	-0.065 .	-0.014	-0.026
	b1.5(意思疎通-仲間)	-0.019	-0.048	-0.039	-0.037	0.003
	b1.6(意思疎通-現地)	-0.056	0.005	0.013	-0.021	-0.072 *
寄与率(R ²)	0.016	0.006	0.017	0.004	0.009	
自由度	974	967	971	971	971	

*** p<.0001, ** p<0.01, * p<0.05

困難(6)「現地の方々との意思疎通に困難を感じた」は、「学士力」項目(3)「言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力」、(4)「目標を達成するために解決すべき問題を見つける力」、(8)「人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力」、(10)「グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力」、(15)「伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力」に負の影響を与えていた。「学士力」項目得点の変化量に対して最も広範な影響を与えていたのがこの項目であった。現地の人々との意思疎通の困難さは、(8)(10)(15)のようなコミュニケーションに関する「学士力」項目のみならず、(3)(4)のような主体的な問題解決力に関する項目に対しても負の影響を与えていた。この結果は、現地の人々との意思疎通の困難さを軽減することにより、「学士力」項目得点の低下を防ぐことができることを示唆している。実際、自由記述欄において、事前に現地の方言に関する指導をしてほしかったという記述が散見された。今後の事前指導において方言に関する用語集を配付するなどの対策を取ることが有効ではないかと思われる。

4.4. 事前学習機会の有無による、活動前後の「学士力」項目得点の変化量の違い

事前学習機会の有無が「学士力」項目得点の変化に与える影響を検討するために、事前学習の有無によって回答者を2群に分け、「学士力」項目得点の変化量を従属変数としたt検定を行った。分析結果を表4.4に示す。その結果、「学士力」項目(4)「目標を達成するために解決すべき問題を見つける力」のみにおいて有意な効果が認められた。事前学習を行った場合の方が、「学士力」項目(4)の向上の度合いは有意に高かった。事前学習で得た知識が、現地での問題発見を促進させる効果をもたらしたと考えられる。

表 4.4 「学士力」項目得点の変化(平均値)の、事前学習の有無による比較(値が低いほど能力の自己評価が向上している)

GP項目	事前学習の有無		自由度	t値
	あり	なし		
d3.1(事後-事前:自ら進んで取り組む力)	-0.176	-0.127	994	-1.19
d3.2(事後-事前:一緒に行動する力)	-0.369	-0.191	992	0.28
d3.3(事後-事前:粘り強く行動する力)	-0.058	-0.105	993	1.04
d3.4(事後-事前:問題を見つける力)	-0.138	-0.031	984	-2.44 *
d3.5(事後-事前:考えて準備する力)	-0.069	-0.020	987	-1.05
d3.6(事後-事前:工夫して考える力)	-0.150	-0.164	914	0.29
d3.7(事後-事前:理解してもらるように伝える力)	-0.174	-0.180	993	0.11
d3.8(事後-事前:きちんと理解して聞く力)	-0.054	-0.073	992	0.39
d3.9(事後-事前:違う考えや立場も尊重して理解しようとする力)	-0.037	-0.077	989	0.89
d3.10(事後-事前:どんな役割をすればよいのかを理解する力)	-0.106	-0.149	991	0.96
d3.11(事後-事前:規則やルールを守って適切に行動する力)	-0.004	0.020	992	-0.55
d3.12(事後-事前:探したり、選びだしたりする力)	0.000	-0.007	985	0.14
d3.13(事後-事前:仕事と結びつけて考える力)	-0.136	-0.119	990	-0.34
d3.14(事後-事前:相手が納得するように伝える力)	-0.136	-0.217	936	1.66 .
d3.15(事後-事前:わかりやすいように工夫して伝える力)	-0.185	-0.168	989	-0.36

*** p<.0001, ** p<.01, * p<.05

4.5. 本節のまとめ

4.1 では、活動に参加した理由が活動前の「学士力」項目得点に与える影響について検討した。さらに4.2では、活動において感じた困難が活動後の「学士力」項目得点に与え

る影響について検討した。これらの分析では、参加理由が活動前「学士力」項目得点に与える影響、困難が活動後「学士力」項目得点に与える影響、といった因果関係を想定して重回帰分析を行った。しかし、個人の内的特性が参加理由と活動前「学士力」項目得点の両方に影響を与えている可能性も十分にある。活動において感じた困難と活動後の「学士力」項目得点についても同様なことが言える。4.1 と 4.2 の分析結果を解釈する際には、この点に留意する必要がある。

一方、4.3 では、参加理由と困難が活動前後の「学士力」項目得点の変化量に与える影響について検討した。さらに 4.4 では、事前学習の有無が「学士力」項目得点の変化量に与える影響について検討した。これらの分析では、同一個人の中での「学士力」項目得点の変化を従属変数としており、個人差の要因が排除されている。したがって、各要因が与える影響をより明確な形で取り出すことができたと考えられる。

4.3 では、自分の能力について困難を感じたことが、「学士力」項目(6)「解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力」を高める方向の影響を与えたことが確認された。これは、学習機会としてのボランティア活動の有効性を支持する結果である。一方、現地の方々との意思疎通がうまくいかなかったことは、多数の「学士力」項目得点を低下させる影響力を持っていた。これは、今後の活動において、現地との意思疎通に関する事前学習などが効果を持つであろうことを意味する。

さらに、4.4 では、事前学習を行うことによって「学士力」項目(4)「目標を達成するために解決すべき問題を見つける力」が高まることが確認された。この結果は今回の活動参加前に行われた事前学習が有効であったことを示している。

[文献]

R Development Core Team (2005). R: A language and environment for statistical computing. R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria. ISBN 3-900051-07-0, URL <http://www.R-project.org>.

[謝辞]

この調査にご回答いただいた皆様に、心よりお礼を申し上げます。また、調査の実施にあたっては、岩手県立大学の教職員および学生ボランティアの皆様に、全面的にご協力いただきました。本当に、ありがとうございました。

[執筆分担] (所属は、すべて大阪府立大学人間社会学部)

1. および 2. 吉原雅昭
3. 井手亘
4. 牧岡省吾

○ 東日本大震災ボランティア「大学生の参加経験に関するアンケート調査」

問4（自由記述）結果（公立大学の学生254人の全ての回答について記述どおり）

4 最後に、今回の活動に参加しての感想や意見等を、自由にお書き下さい。大学や現地組織による皆さんへのサポートに関する感想、意見、提案等をお書き頂いても結構です。

- 初日は現地の被災の状況を見て、ただショックを受けていただけでボランティアもやったことないし、できるかなーという不安でいっぱいでした。だけどチームの団結がだんだん強くなって活動もだんだんとできあがっていきました。思っていた以上にすごくいい経験ができました。
- やはりテレビで見ているだけではわからなかった被災地の現状を知ることができました。仮設住宅に入ったからといって安心できるわけではなく、地域のつながりが全くなく、みんな孤独を感じていることを実感しました。お話をしにいても伏し目がちで元気がないような感じで、この地震の与えた精神的ダメージの大きさを感じました。この孤独を解消するには、長期にわたるボランティアが必要だと思いました。
- ボランティアだけでなく、住民たちだけでもお茶っ子サロンの場を使えたら自治体が意見交換の場になると思う。夜しか仮設にいない人はコミュニティーの形成が難しいから、夜のお茶っ子サロンを住民だけでもできたらいいと思う。それから目安箱の設置を求む!!! 言語障害の人もいるから会話に五十音表があったらいいなと思う。仮設を回って話すことが緊張してあまり積極的に回れなかった。反省。子供達の元気に勇気をもらいました。女性の生理用品がトイレにたまっていることが多かったんで、ゴミ出しの時に一緒に持って行っていただけるとありがたい
- 衛生面ということを強くおっしゃっていたわりに、サロンに食器用洗剤がないのはどうかと思いました。洗剤で洗っていない食器を毎日使い回していると知ったら、自分ならそんなお茶っ子サロンには行かないです。
- 今回のボランティア活動に参加させていただいて、被災地の現状だけでなく自分に不足している力やこれからの課題や目標などを再確認する良い機会になったと思います。とても貴重な人とのつながりや経験を提供してくださり、ありがとうございます。
- まわりの方々に学ぶこともすごく多く、また、おばあちゃんに、子どもたちと遊んでくれてうれしいと言ってもらえたりとか、来てよかったってすごく思えました。
- 子供達から逆に元気、勇気をもらいました。「本当にありがとう」と伝えたいです！
- 今回の活動を通して「自分にも出来ることがあるんだ!!」ということが分かった。今までは「しよせん自分には…」って思ってた行動できなかったけど、今回の経験を皆に伝え、もっとボランティアの輪を広げたいです!!
- この貴重な体験のできる場所を提供してくださってありがとうございます。“何かしたい”という気持ちを形にできるすてきな場所だと思います。スタッフの皆さんはいつもいつもすごく大変だと思うけど、私達もこれから自分にできることをやっていきたいと思います。
- 今回の活動に参加して本当によかったと思った。今までは、被災地のことはテレビを通してしか知らなかったけど、実際現地に来てみて、被災者の方々とふれあうことができ自分自身がすごい変わった気がする。現地の人は、まだショックを受けていて精神的にまいっているのかなと思ったけど、高齢者も大人も子どももすごく元気で明るい印象だった。特に、お年寄りの方には仮設住宅に上げてくれたり、お茶やお菓子を outlet してくれて当時のことを話してくれたりしてとても勉強になった。私たちのような学生でも、被災地の役に立てることがとても嬉しかったし
- サロンでお話をきくことで、震災のことが少しわかるようになりました。衝撃を受けることも何度かありましたが、自分の存在が誰かの役に立っていればいいなと思います。
- はじめてのボランティアを経験させていただきましたが、たくさん考えることがありました。グループで話し合っているときに意見が違って少しけんかのようにになってしまう時もありましたが、みんな同じ目的でここにいるので、最後は必ず良い方向に向かえたと感じました。足手まといになっていると感じることもありましたが、グループの子や県大生の方に助けられました。この貴重な経験を大いに活かし、
- いろんな点で自分の反省すべき点が見つかった。ボランティアをして良かったと思う。
- できたら、また同じ仲間と活動できるような機会があってほしい。
- ボランティアがどんなものかわからず、それを体験したくてこのボランティアに参加しました。最初はどんな目的で、自分たちは何をしたらいいのかわからず戸惑いました。やっていくうちに県立大生のスタッフの人に話を聞いたりして、だいぶこの活動では何をやりたいのかわかってきたような感じがします。私が行った地区はサロンを開くまではいきませんでした。仮設住人がどんな状況で何が足りないのかがニーズ調査でわかり、基盤が作れたので、今後の活動メンバーに頑張ってもらいたいです。
- 岩手でのボランティアは初めてでしたが、報道されているほど復興は進んでいないように感じた。また、浸進地区にも仮設住宅を建てなければならない現状に憤りを感じます。自分のできることがあまりに小さく、その無力さを痛感させられ地元に戻ってもできる限りの支援をしたいと思えます。
- 朝食は甘いパン同士とかはちょっと辛いです。野菜ジュースが良いと思います。
- 今回、ボランティアに参加できてとてもよかったです。物資をはいふした時、感謝のお言葉をいただいたときはとてもうれしかったです。今回、ボランティアにはじめて参加してみて、ボランティアの考え方が変わりました。ボランティアは、ずっとボランティアされる側に利益があると思っていました。けど、実際やってみて自分も人間的に成長できたし、自分のこれからの課題を見つけることができました。GINGA-NET プロジェクトは、全国からたくさんの大学生が参加しており、たくさん学ぶこともあったし、とても刺激を受けました。このボラ
- Everything all right でした。
- 自分にとってとてもプラスに（色んな意味で）なった。子どもは苦手だったけど、大好きになった。GINGA-NET さんのサポートがしっかりしていたからこそ、私たちが快適な気持ちでボランティアに参加できた。
- ここに書ききれないぐらいたくさんを経験できた。帰りのバスの中で色々ひととつづつふりかえりたい。とりあえず、参加して本当によかった。
- いわて GINGA-NET のハッピーさん、オバちゃんさんの手助けで最後までやりとげることができました。いわて GINGA-NET のスタッフの皆様へ感謝しています。
- 普段、しょうもないことばかりしてきた自分が誰かのためになることを少しは、出来たのかなと感じた。それも、他大学の方や、スタッフ、岩手県、そして何より被災された方々のあたたかさのおかげだと思います。一生心に残る体験をさせていただきました。しかし、まだ、まだ、できることはあるはず。帰ってたくさんの人に現状を伝えていきたい。
- 自分たちは岩手県立大学の学生スタッフが付かず、最初自分たちだけでやっていたのだが、その中で自分たちで考え、話し合っ決めてた内容が結果的に取りやめになったことが数回あり、そこまでの時間や労力ももったいなく感じたことがあった。例えばアンケートやマップの張り出しなど、他の班でも出た意見、結果的にやめた方がいいと判断されたものに関しては特に周知させてほしかった。

- 15人グループは、良さもあるけれどやはり意思疎通が大変でした。
- 実際に現地をみて状況を知ることができてよかったです。
- 今回初めてボランティアに参加させて頂き、震災による現地の被害状況を直接目で見ることができ、ボランティアというものがどういうものなのかなんとなくではありますが分かった気がしました。この5日間での経験と現地の人との触れ合った思い出、そして一緒に活動した仲間は一生忘れないと思います。出発前は不安で仕方なかったですが GINGA-NET プログラムに参加して本当に良かったと思っています。
- とても不安だったけど、周りの人やおばあちゃんやおじいちゃんたちが支えてくれたので、とてもいいボランティアができたと思います。
- 被災地ボランティアとして北が、存外良い待遇を受けた。もう少し質素でもよいと思った。
- 岩手県立大学のスタッフのみなさん、キャップには本当にお世話になり感謝しています。
- まず、スタッフの皆様、手厚いサポートありがとうございました。同じ大学生という立場で、様々な面で行き届いた場を提供していただいたからこそ4日間の活動ができました。個人的に、参加者であります。共同生活を行う者同士として、もっと気軽に「これ一緒にやってください！」とかあったら良いなあ、なんて思いました。(でもこっち側からもアプローチすべきでした…ごめんなさい)ここではスタッフさんへの意見とお礼の場として使わせていただきました。もちろん4日間の学びというか、もったものは大きいです。
- 自分で考えることの大切さを学びました。パンなどの余りを極力減らす工夫をしたいと思います。
- 今回の活動に参加できて良かったと思います。県大のスタッフの方々も、心強いサポートをして下さってありがとうございました。
- とても貴重な体験をさせてもらったのでよかったです。お話を聞いたり、子供たちとあそんだり、本当に濃い1週間でした。
- 今後のために良い経験になりました。もう少しボランティアの時間が長ければいいなと思いました。岩手は遠いのですが、GINGA-NETの方々のおかげで、ここに来ることができました。ありがとうございました。
- ボランティアの難しさを経験するとともに、貴重な体験をさせて頂きました。他大学と交流することで、学校では体験できないこともあり、刺激を受けました。考えを相手に分かってもらえるように伝える力が身に付いたと思います。ボランティアに参加することで自分も成長できました。
- キャップ、県立大学のみなさん、ありがとうございました。遠くから応援しています！
- 自分の能力の限界を知るとともに、それを乗り越えた先の可能性を見つけることができました。それは岩手にいる住民の方々や、「いわてGINAGA-NET」
- 人は誰でもお互い様。人があって自分が成り立つ。人間のあたり前の存在の様子を再確認できた。とてもこのプロジェクトは本当に素晴らしいです。ありがとうございました。
- 学生であるが故の特徴が様々な形であらわれたボランティア活動だったと思います。学生独特のノリの良さは元気を与えられる反面、自分が何かしたいという積極性は時に被災者のニーズをおきざりにして、いつの間にか自己満足に走ってしまう。そして毎日の反省会でその日の行動をふり返り、日々改善、考え直しの作業。学生にとっては様々な勉強になる活動だったと思います。
- パンの量が多すぎました。それ以外については、本当に県大生の方々、GINGA-NETの方々にとても感謝しています。本当にありがとうございました。
- 朝のパンを甘いものと辛いもの(こってり)の組み合わせにしてほしかった。
- スタッフの方がとてもよくしてくださり、活動に精一杯とりくむことができました。ありがとうございました。
- 食事や飲み物は最低限の量を用意していただければ、あとはコンビニ等で調達します。余ると申し訳ないです。
- 違う大学との交流もできたし、いろいろな考え方の人がいるグループで自分が少し変わったと思った。とてもいい経験になりました。
- 今回の活動の背景には、岩手県立大学のみなさんや様々なボランティアそして被災された方の協力があることを知ることができました。
- とても貴重な経験ができました。ありがとうございました。
- 一生の思い出にのこる良い経験ができました。ありがとうございました！
- 5日間だったけど、自分のためにもなるいい経験ができた。
- がれきの撤去など、体力的に大変なものではなかったけど、被災された方との「距離感」が難しく感じました。最終日、いろんな人から「ありがとう」の言葉をもらえたことが印象的でした。
- 今まで出会ったことのない人たちとチームを組んで活動し、話し合いながら工夫をして同じ目標を向かい合ったことで、他人の意見を聞くことで、自分の考えからさらに深く考察することができたと思う。
- 私たちにとって十分すぎるくらいのサポート体制で活動を支えていただいた。申し訳なく思うとともに深く感謝している。参加者の中に同じように思う人がいると思うが、少なくとも私は、自分のできること、役割を自覚し、万全の体調で臨み、全力で活動することが大切だと思っている。なので、GINGA-NETのみなさんには引き続きわたしたちボランティアを支えてほしいと考えている。
- まずこれだけの人数をしっかりとめてくれた銀河ネットのスタッフさんに感謝です。私たちが寝た後も遅くまで話し合いをしてくれて、おフロの手配など感謝するばかりです。そんなスタッフさんのおかげで、現地に来なければわからない思いを感じることができ、自分の無力さを実感し凹むこともありましたが、すべて終わった今、すごく充実しています。今の自分にしか感じるできないことを多く気づかせてもらいました。帰ってこの経験をしっかりと伝えたいと思います。
- 細かい指示を常に出していただきありがとうございます。
- 他の大学の方々と交流して、一緒に活動することができてよかったです。ボランティア活動を通して、被災された方々や同じボランティアチームの様々な話や意見を聞いてよかったです。ボランティアへ参加した前と参加した後でボランティアに対する自分の考えが変わったと思います。今回のボランティアで自分たちができること、の限界や、自分たちだからこそできることが分かって、自分の中で大きく成長することができたと思います。まだ考え中ですが、今後何らかの形で被災地や被災された方々の力になりたいと強く思いました。
- ボランティアだから「何かしよう、何かしなくちゃ」と力むことなく自然体で参加できたと思います。子供たちと一緒に遊ぶ、大人たちとおしゃべりをするということだけでもボランティアになるんだなあと思いました。社教のみなさんとても親切で、サロン活動がスムーズにできて、充実した日々を送ることができました。
- あらゆる面でご支援いただき感謝です。
- この活動に参加していろいろな被災者の方々にかかわることで、人間として成長できたと思うので良かったです。
- 実際に現地に入ってボランティア活動をして、本物の現状、被災者の生の声を聞くことができてとてもよかったです。また、普段考えないようなことをみんなで議論したりもして、様々なことに対して高い意識が持てるようになった。
- 実際に現地を訪問して、そこに住む人のお話を聞いたり、現在の状況を知ることができたのは本当によい勉強になった。いろいろな大学の人の考えが聞けたのも貴重な経験だった。自分たちで考えて活動するには様々な工夫が必要で大変なことを実感することができよかったです。また機会があったら参加したい。
- 参加して、とてもよかったです。人間は強いと改めて感じることができました。
- ありがとうございました。とても楽しかったです。この「楽しかった」と言える環境を作ってくれたスタッフに感謝するとともに、楽しむ力の強いメンバーと一緒になれたことが嬉しいです。
- たくさん経験されているスタッフさんに質問しに行くと同じような経験をされていて、「あ、そうか!」と思える答えを教えてください。すごく為になりました。
- 「学生の主体性を尊重している」ということを、あらかじめもつといた方がいい気がします。
- 自分たちがサポートをどこまでしているのか、住民の方の生活のどこまで踏み込んでいけばいいかを考えるのがとても難しく、また4日間ではできることが少なすぎると感じた。
- サポートセンターとボランティアが協力して何か行ってもいい

の？←サロン外の活動に。

- 住民皆と交流するために、お宅訪問、家にあげてもらおうなどしているの？
- こうして学生の思いを受け入れてくれる受け皿があるということがどれほど重要であるか、社会がもっと高い意識をもてる環境をこれを機に日本全国の人が考えてほしい。
- たった4日間の活動でしたが、チーム内での意見交換が活発で密度の濃い時間を過ごすことができました。
- サロン活動を通して、東北の様々な人と交流することができました。震災から6ヶ月が経ち、仮設住宅の人たちは元気にすごしているようでしたが、お話を聞いていると、部分部分に重くのしかかっているものがまだあることを実感させられる場面も数多くありました。本当に貴重な経験でした！いわて GINGA-NET のみなさんには、たくさん迷惑をおかけしましたが、いろんなサポートをしていただいて、感謝しています！！
- はじめは、自分になにができるかと、まったくわからなかったけど、実際に活動してみて、自分にもできることがあるんだと分かって良かったです。
- 伝言ノートがあったが、それを読んでもあまりイメージがつかずらかった。うまく伝達できるような仕組みが必要だと思う。3日目のふりかえりの時に流したようなDVDを初日とかに流していただけたらもう少しスムーズに活動ができたと思う。
- 正直、ボランティアを自分が出来るか、かなり不安でした。自分は人の世話をするとか得意ではないし、確かに実際に自分に出来ることはかなり限られていたのですが、今求められているのは炊き出しなどではなく、仮設に入っている方々の交流＝自治組織だと感じました。
- とても、これからの人生のためにいい経験をさせていただき、ありがとうございました。スタッフさんも、本当にありがとうございました。
- 遠くから来て良かったと心の奥底から感じさせられました。自分の目で現地の様子を見て、現地の人々と関わり、何らかの形で支援できて、これからの自分の価値観を大きく変えられた気がします。これからも積極的にボランティアに参加します。東北にもまた来ます。このような機会を与えて下さった皆様に感謝感謝です。
- 初日しか活動しない、できないというとき、現地の方は学生のことをまっています。天候は仕方ないですが、行けなくなった場合のアフターフォローをしっかりと考えてもらいたい。あとは、何もありません。お疲れ様でした。
- 非常に参加して良かったと思う。しかし、食べ物の廃棄が多すぎる所が気になりました（弁当とかパン）
- 天ぷら系の弁当がとても重かったです。できるならもう少し野菜などの軽いものが食べたい。
- 今回は中心的にサロンを行った。サロンは体力面などはほとんど関係なく“人の気持ち”が大切になってくる。そんなことを学べたボランティアだった。
- 今回実際に参加して自分の考え方のあまさを感じました。人々をつなぎとめるということは簡単ではないのだと思いました。私たちは一週間の活動になってしまうのだけれど、あとの人々につなげていくことの重要視を感じました。本当にたくさんのことを学びました。学生を参加させることの意味が少し分かったように感じます。
- 今回のボランティア活動は自分にとって、本当に有意義なものとなりました。できると思っていたことでも力不足を感じつつもあったし、逆に想像以上にできた部分もありました。現地の方々は本当に心優しい方ばかりでしたが、すべての人が健康的に幸せであったりするわけではないことを知りました。メンタルのサポート面はお茶っこサロンの活動以上に強く取り組む必要があると感じました。あと、パンなどの残りがすぐぐもったくないので、朝は1個でもいいと思います。1日のお茶も毎朝1本だけで十分です。いろいろ提案が通らない部分（コピーやマ）
- 自分に何が出来るのか不安でたまりませんでしたでしたが、1人1人の人と接していく中で“こうしたほうがいいんじゃないか”といういろんなことを考えることが出来て、試行錯誤の毎日でしたが、1人1人の方と向き合えたような気がします。
- 最初の時と見方が少し変わりました。実際に目で見ると「遠くで起きたこと」でなく「とても身近なこと」に感じました。ニュースで見る聞くのと全然違って驚きました。
- 弁当の内容がとても重たく、弁当でお腹の調子を崩しやすいように

思います。

- ボランティアに参加して、岩手の方々の温かさを知ることができた。そしてボランティア活動を支えてくださった方々と、チームでの協力力があって、とても楽しい時間を過ごすこともできました。
- 岩手が好きになりました。でもボランティア活動の面であまり達成感が得られませんでした。自分たちのやっていることが本当に被災地の方々の役に立っているのか、常に不安でした。被災地の状況に自分もショックを受けているという頼りない状況で、被災者の方々の支えになったり、交流の場を提供したりできる自信がありませんでした。私にとっては震災直後の様子を見るより、震災後、6カ月もたった被災地の復興が進んでないという状況を見る方が辛かったように思います。GINGA-NET のこの企画、入れ替わりで前期メンバーと次期メンバーが、交
- 1週間は思ったより短くて最初はどうかと思ったけど、この活動を通していろんな人と触れ合えたり、いろんな人の考えが聞けてよかった。
- 最初は全然知らない人ばかりのチームですごく不安だったけど、一緒に過ごすうちにだんだんうちとけて仲良くなって、活動もすごい協力しあってすることができて楽しかった。あと、1日目は自分から積極的に話しかけたり出来なくて落ちこんだけど、そのあとは積極的にいけてよかった。少しでも役に立てたかなと思いました。
- おつかれさまです
- 1週間お世話になりました。できれば、お弁当が揚げ物や肉類がとても多かったのもう少しバランスのとれたお弁当の方が体調的にも良かったと思うし、うれしいと思いました。ですが、岩手県大の皆さんのサポートのおかげで、とても貴重な経験ができました。ありがとうございました。せっかく今回このボランティアに参加して学んだことを伝えたり、もっと何かしていきたいと思います。
- 被災地を自分の目で見たことと、被災した方と直接お話しすることで、多くのことを学べた。サロンに来ていただいた方と話している中で、人生においても大切なことを教わり、自分でもいろいろと考えることがあったので、今後の人生にいかしたい。また、ボランティアという活動のすばらしさなどを感じ、今後も機会があったら参加したいと思う。
- ボランティア前後で、自分の能力に対する自覚が変化したことがよく分かった。初対面のメンバーと協力し、コミュニティ形成のお手伝いをするを目標に1週間活動できたことは、とてもいい経験だったと思うし、課題は残ったが達成感があった。GINGA-NET を企画・運営して下さったスタッフの方々には感謝したいし、またこのプロジェクトの活動があったらぜひ参加したい。最初はどのような事かと思った200人との共同生活もとてもよい経験だった。
- 結局自分たちには何が出来るのか、本当に必要な活動であったのかはよく分からず、色々考えることも多く、おそらくボランティアに参加したほとんどの人が疑問とかを感じながら活動していたと思います。しかし、現地で、お年寄りの方の話の聞いたり、実際どういう状況であったのかということを生で聞けて、すごく貴重な経験が出来たと思います。「ありがとうございます」とか「楽しかった」と言われると、やって良かったなとも思いました。
- 色々な人と接するなかで、自分が何の役割を果たしているのか、何の役割をすべきかを考えました。良い機会をありがとうございました。
- 自分はあまり役に立っていないかもしれませんが、やはりこれだけ多人数がいたからこそ、そのように思えたのかもかもしれません。全て、今回集まって下さったボランティアの皆さんと、いわて GINGA-NET の皆さんのおかげです。みなさん、本当にありがとうございました。
- ボランティアがルールやマナーをもっと考えるべき。スタッフの負担が大きすぎて継続に支障が出そうで心配。
- 参加して本当に良かった。まず、被災状況をメディアを通してだけでなく、生で見れてよかった。いろんなことを感じたが、この悲惨さを忘れてはいけないし、伝えていかなければいけない。そして私は子どもと接する時間が長かったが、子どもなりの感情の処理をわかった気がした。スタッフのみなさん、サポートありがとうございました。
- すてきな機会に恵まれてとても感謝しています。学生のモチベーション（花火、夜更かしなど）とても同志として残念でした。

- ボランティアとして活動しやすい環境だったと思います。スタッフの皆さんには本当に感謝しています。
 - 本当によい経験ができた。これからも東北の被災者の方々に何かしら力になりたい。岩手県立大のスタッフの方々をはじめ、さまざまなひとにお世話になり感謝しています。ありがとうございました。
 - 沿岸部の地域では、被災した当時の状況がリアルに伝わるところもあり、衝撃を受けました。しかし、本当に失礼なことかもしれませんが、現地の方は力強く歩いて、想像していたよりもみなさん元気そうでホッとしました。ただ、まだまだ立ち上がっていかなければいけない部分、助けが必要だと感じる部分もあり、これからも、日本も世界のみなさんもこの地震、津波のことを忘れず、応援していく必要があると感じます。同じ大学生として、岩手県立大のみなさんのひっぱり力、サポートは、本当に尊敬します。ありがとうございます。
 - 野菜と果物をもっと食べたかったです。談話室に冷蔵庫があると便利ですが、なくても何とかあります。今回のボランティアで、子供に対する接し方を学びました。子どもを見ることで、自分も見つめる事ができました。考え方が変わりました。子どもを見てると、ジャンプと同じだな〜と感じます。人生変わったかもしれません。
 - 現地の状況や住民の方々を知ることができてよかったです。なかなか思うようにいかず、自分の力不足を感じたが、それでもこんな私にも「ありがとう」と声をかけて下さってとても嬉しかった。私達のお茶っこサロンで、少しでも来てよかったですと思っていただけたようでとてもよかったです。
 - 参加して良かった。今後の自分の考え方も考え直し機会になりました。
 - ニーズのアセスメントを再びおこなっていくべき→現実、場所とのニーズが合っていない。
 - ボランティアの難しさを痛感しました。自分にできることを見つけること、住民のニーズに答えることは難しいと思いました。
 - 楽しかったです。
 - 最高の経験
 - ボランティアに参加して、お茶っこサロンを通して住民の方々とコミュニケーションをとる事ができ、実際に被災地を視察したりして、様々な経験をさせてもらって本当に来てよかったと感じた。また、少しでも住民の方々に喜んでもらえてうれしかった。
 - 今回初めてボランティア活動に参加しましたが、とても充実したボランティアになりました。4日間という活動期間は短く感じました。(現地の方との関係が作れたのが3、4日目だったので…)他大学との交流もでき、とても楽しくいろいろと考えが深まった5日間でした。活動するにあたって、準備して下さったSTAFFのみなさんありがとうございました。
 - 自分の考えと班の想いが異なって、積極的になれなかった。
 - マネージおつかれ様でした。今回の経験は、生涯忘れません。ありがとうございました。
 - スタッフがあまり重要とは思えないことも全体にマイクで話しかけていた。そちらの方が手間は省けるが、その度に我々チーム共有の場が中断せざるを得なくなった。その点は改善してください。お疲れ様です。ありがとうございました。
 - お茶っこサロンは、状況が毎日異なり、適切なことを考えることが難しかった。地元の方のお話を直接聞いたことはよい経験となった。
 - 宿泊施設は申し分がなかった。しかし、毎日お弁当は体にキツかった。
 - 今回の活動で、一生残るよい経験になりました。現地の人たちとの関わりをもつことにより、震災に対する思いも変わりました。たくさんの方のサポートありがとうございました。一日も早い復興を願っています。
 - 寝るところや食事、移動手段、お風呂まで十分に準備されていて快適でした。住民の方との関係づくりはとても難しかった。心を開いて、つらいことまで話を聞くことができななかったのが心残りです。
 - とても貴重な体験ができました。今後もこの活動のことを生かして頑張っていきたいと思います。
 - 引率として、大学の教員や職員間で交流できたことがとてもよかったです。
 - ボランティアとは何か 大学生に何ができるのか 考えさせられた。
 - 今回、GINGA-NETさんのおかげでボランティア活動をする
- ことができました。本当にありがとうございました。
 - 今回の活動に参加して、現地の人々との関わりだけでなく、スタッフ同士の関わりも通じて、私自身の成長にも繋がったと思います。次もこのような機会があったら、ぜひまた参加したいです。
 - 今回の活動に参加することで、チームでの活動に仕方や自立性を学ぶことができました。現地の皆さんは、みんな私たちによくしていただけてとても嬉しかった。途中、違うボランティア(?)の方に大学生はこれで単位が取れるんでしょ?などと言われ少し傷ついたが、その分頑張れた。たくさん経験をありがとうございました。
 - 現地の方と直接関わることができてとても貴重な体験でした。自分が感じたことを家族や大学の友人たちに伝えたいと思いました。また、岩手県立大学の皆さんのおかげでとても過ごしやすかったです。本当にありがとうございました。
 - 自分の持っている知識・技術も大切だが、何よりもグループの存在、その協力が今回の活動で重要だったと感じた。今回の活動では、住民の方の新たなニーズを見つけその達成のためにどう毒力考えるなど、私の学ぶ看護に共通する部分が多くあり、とても良い経験になった。
 - たくさんの人と関わることでたくさんの体験ができました。ボランティアに参加してとても良かったです。ありがとうございました！！
 - 自分の能力や価値観などが今回のボランティアを通してけっこう変わりました。
 - 岩手に来ることができて、本当によかったです。帰ってもコンビニ募金などの小さな活動を続けていきます！ありがとうございました。
 - 4日間はあまりにも短く、私は無力でした。でも、信頼できる仲間と、すてきな人に出逢えた経験がとても貴重なものになりました。沢山の人の支えられていること、そして支えていることを実感しました。
 - さまざまな経験を蓄えました。この活動によって、実は、たくさんの現実の問題を出てきました。表面だけでなく、奥まで続いてやるべきです。
 - こんなに貴重な体験をこの時にできて自分のこれからのためにも良い経験になりました。またこういう機会があったらぜひ参加したいです。
 - 毎日、振り返りの時間やグループのみんなとの話し合いの時間があり、すごく他の学生の考えや意見が聞かせて学びになりました。現地のスタッフ方はとてもあたたかく私たち学生ボランティアを受け入れて下さり感謝しています。本当にありがとうございました。
 - 現地の様子を実際に見ることは自分に大きな影響を与え、すごくためになった。
 - 本当に来て良かった。滞り場所や移動などの受け入れがあれば、自分たちの思いは行動に移せるというのを実感した
 - とても楽しかったです。数日前には知らなかった方たちと本当に仲間のようになれました。きょうな経験だったと思います。
 - 今回の活動は、銀河ネットさんやグループのみんな、仮設のみなさんのおかげでうまくすすめることができたと思ひ、みんなへの感謝の気持ちでいっぱいです。思ったより、自分がうごくことができて、うれしかったです。自分をみつめなおし、また、まわりからたくさんの方の刺激をもらうことができました。本当にありがとうございました。
 - 参加できて本当によかったです。このような機会を用意して下さったGINGA-NETのみなさんをはじめ、愛知県立大学、ボランティアセンターの方々、住民の方々に感謝申し上げます。
 - 県立大のサポーターさんや本部スタッフさんのサポートがあったからこそ充実したボランティア活動をすることができたと思います。また機会があれば参加したいです。
 - とてもいい経験になりました。ありがとうございました。
 - 一度、災害ボランティアに参加したが勝手が違い初めてする経験がたくさんあった。これからも今回の活動を活かして自分で行動をしていきたい。ガンバロウ岩手！
 - 今回の活動は自分が思っていた以上に得るものが大きく、とても感謝しています。ありがとうございました。まだ私の中でまとめられていないので書けません。
 - 今回初めて大規模なボランティア参加させてもらって、全然わからない中 GINGA-NETのみなさんの助けがあっただけだったことと思ひ

ます。ありがとうございます。

- 今回のボランティアに参加させていただき、自分自身も本当に大きな感動をうけました。自分が元気づける存在にならなくてはいけなはずなのに、逆に勇気や元気をもらいました。私たちのサロンに遊びに来ていただいたみなさま、私たちを支えてくれたすべてのみなさまにいい気な感謝の気持ちです。サロンは、人が来ていただいて機能していくものです。私たちのやり方に共感していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。
- 2泊3日でも冬でもまた絶対参加したいです!
- 本当にすばらしい活動だったと思います。現地におとずれ自分達でその地域に合うニーズについて考え行動を起こすなんてことはめったにないので、本当にありがとうございます。
- 被災地の中に飛び込んでみたことで、今まで感じていたことと大きく変わる点あったり、新たに感じるものがたくさんありました。問題点を深く考え、今日1日を振り返ることで、様々な考えを持てるようになったと思います。これから、周りに伝えていきたいと思ひます。ありがとうございます。
- 今回の活動は私自身成長するキッカケとなりました。このような機会を与えてくださり本当にありがとうございます。
- 今回このようなボランティアに参加し、多くの人と関わったことで、人との接し方やまた自分の能力の限界も知りました。また、この短い間だったけど、この場で学んだことを多くの人と共有し、このような輪を広げていけたらと思う。
- 復興支援委は、とても多くの人に関わっていて、今回、自分もその1人として活動する機会を与えて下さった「いわて GINGA-NET」のみなさんには感謝してもきれないです。また、被災地を実際に見ることで、改めて生まれてきた感情もあり、それは忘れてはいけないうし、伝えていかないとはいけなうと思ひました。また、活動してみても、自分の力の小ささと、多くのボランティアの方々が集まって生まれる力の大きさを実感させられました。これを機に、多くのボランティア活動に参加していきたいと思ひます! 本当にありがとうございます。
- GINGA-NETの皆さんの運営が素晴らしくて、大変貴重で自分のためになる日々を過ごすことができました。
- ”参加してみないとわからない”この一言に尽きるなと思ひました。被災地の状況からボランティアの難しさまで。経験してから考え方の変化がものすごくありました。百聞は一見にしかず。一日も早くみんなが笑えますように。ありがとうございます。
- 体育館での寝泊まりと思っていたよりも過ごしやすかったです。ご飯が揚げ物が続いていたので胃が少し大変でした。でも、4日間一緒にいた小白浜のチームが最高でした。このチームでなら、また何かしたいです。そして私がこの活動をするにあたりご尽力くださった GINGA-NET のすべての皆さんに心から感謝します、ありがとうございます。
- GINGA-NET の方のきびきびとした姿勢がとてもよく、こっちもやる気が出てきた。これからもその姿勢でやっていただきたい。
- ボランティアをする良い機会を与えていただき、ただただ感謝です。
- 本当にたくさんの経験をさせて頂きました。こんな機会を設けて下さったみなさま、本当にありがとうございます。ボランティアでおこなった場所を引き続きどうかお願いします。あと、個人的にもうちよっと私たちにムリ(?)というか、ゆとりをもたせてくれなくてもよかったなと思ひますが、でも、スムーズにいけたのは皆さんのおかげです
- 一緒にボランティアをやったメンバーや GINGA-NET のスタッフさん、更には仮設住宅のみなさんにも支えて頂いたおかげで頑張れたように思ひます。ホントに感謝の気持ちでいっぱいです。それと同時にこれからも東北の方たちとつながりたい、支えていきたい、広めていきたいという使命感でみなぎっています。
- ボランティアを出来る環境を整えていただき、本当に感謝しています。ただボランティアをする上で、モチベーションの差とかを感じました。もっとみんなで意識を共有したかった…と自分自身も反省しています。
- とても意義のある活動だと思ひました。またあればぜひ参加したいです。もっとサロンでの活動の時間が長かったらいいと思ひます。
- いわて GINGA-NET の皆さんのサポートのおかげでボランティア活動に参加でき、有意義なものとすることができました。ありがとうございます。

- 現地で生の状況を見ただけでなく、仮設住宅でがんばって生きている人、がれき撤去を毎日行う人、サポートする人、サポートする人をサポートする人、たくさんの人が見れて有意義な時間でした。震災を身近に考えるきっかけになり、これからも何らかの形で関わり伝えていきたいと思ひました。今後も談話室がにぎやかであり、入りやすい場となることを願ひます。
- 充実した活動と自己成長、人間関係の構築、被災地の状況を理解
- いろいろと考えさせられることがあった。何かを得るために今回参加したので、目標は十分達成できてよかった。
- 被災された方々の力になりたいと思ひて、やろうと思ひたボランティアでしたが、逆に力をもらってしまいました。辛い過去よりも前を向いていきたく思ひました。来て良かったです。本当にありがとうございました!!
- 最初はどのようにいいかわからないことも多かったが、最後はたくさんの人に来てくれてすごうれしかったし、活動を実感できた。
- ソフト面は時間が、ハード面はお金が必要だと強く感じた。また、来る!
- 自分と向き合えた4日間だった。
- 私自身とても楽しく活動することができました。子どもたちの笑顔や、高齢者の方のやさしさにいやされました。本当にありがとうございました。
- 色々な事を考えた1週間でした。岩手 GINGA-NET の皆さん、本当にありがとうございました。
- いわて GINGA-NET さんの段取りや仕切りが素晴らしかったです。この活動に参加できてよかったです。ありがとうございます。
- 本日に得られるものが多いボランティアだった。自分の人生にとってとても貴重な体験でした。他の学生にも是非行ってほしい。
- 本当に有意義な3週間を過ごしました。必ずこのことを次へのステップにします。
- 今回、この活動に参加して本当に良かったと思ひました。GINGA-NET さんの活動に刺激を受けました。現地の様子を肌で感じ、考え、先の長さを感じました。人と人のつながりを大切にされている活動に参加でき、あらためて“つながり”って何だろうなと思ひました。生活をより住みやすくするのは、最低限のライフラインと生活物資と、人との会話なのかもしれないなと思ひました。東北の方はとても皆さん温かったです。学生の仲間とも、岩手県立大学の学生さん、先生方とも出会えて本当に良かったと思ひました。ありがとうございます。
- はじめはこのボランティアがどのようなものなのか想像がつかず不安で一杯だったけど、今では様々な地域からの学生さんやいわて GINGA-NET の人たちに会えて、本当に来て良かったと思ひました。もちろん、仮設住宅の住民の方々にも貴重なお話を聴かせていただき、岩手県の方々のあたたかさを感じました。3.11のことを忘れずに、愛知に戻ってもそれを伝えていきたいです。
- 今までの人生の総集編のような体験だった。自分が被災した時、新たな災害が起きた時に役立てたいと思ひう。
- 最初は岩手県立大のスタッフの皆さんの行動力やまとめる力に驚きました。私と同じ大学生なのに、大人のように見えて、自分もこのようになりたいと思ひました。愛知県大の方にも私たちの費用を負担していただき、こころよく送り出して頂いて感謝します。これからもボランティア活動を続けていきたいと思ひました!!
- 何かをやりたくても、何をしたらいいのかわからなかったときに、ボランティアの受け皿となっていたいただいた銀河ネットさん、援助してくれた大学にとっても感謝しています。
- 本当に楽しかった!!人とのつながりをもっともっと大切にしたい!! ありがとうございます。
- 本当に楽しかったし、とっても貴重な経験でした。本当にありがとうございます。
- 今回の活動を通して自分自身は成長できたし、様々なことを関連させて考えることもありましたが、それが現地の人の役に立ったのか不安です。
- 今回のボランティア活動は、本当に良い経験となり、参加して良かったと心から思ひます。GINGA-NET の皆さんには本当に感謝しています。

2011 年度
東日本大震災ボランティア

大学生の参加経験 に関するアンケート調査

このアンケートでは、
ボランティア**活動前に前半部分**
ボランティア**活動後に後半部分**
に回答してください。

調査実施主体
公立大学協会
大阪府立大学

ボランティア活動前に回答してください。

1 あなたが、今回のボランティア活動に参加された理由について伺います。それぞれの質問で該当する番号に○をつけてください。

	①とても 当てはまる	②まあまあ 当てはまる	③あまり 当てはまらない	④まったく 当てはまらない
(1) 被災地の方々を助けたいと考えたから。				
(2) 実際に現地に行って、被災地の現状を知りたいと考えたから。				
(3) この活動に参加することは自分にとって有意義だと考えたから。				
(4) 友人・知人あるいは教員に誘われたから。				

2 あなた自身とあなたの大学について伺います。該当する番号に○をつけ、() 内には、あなたにあてはまる事柄を記入してください。

(1) あなたの性別を、お答え下さい
()

(2) 学年：
①1年 ②2年 ③3年 ④4年 ⑤4年以上 ⑥大学院生 ⑦その他 ()

(3) 学んでいる領域：
①社会科学・人文科学系 ②自然科学・工学系 ③医療系 ④その他 ()

(4) 大学の種別：
①短期大学 ②4年制大学 ③その他 ()

(5) 大学の背景：
①国立 ②公立 ③私立 ④その他 ()

(6) 大学の所在地：
①北海道 ②東北 ③関東甲信越 ④東海 ⑤近畿 ⑥中国 ⑦四国 ⑧九州
⑨その他 ()

(7) あなたは、今回の活動以外に過去にボランティア経験がありますか。
①ある。 ②ない。

(8) あなたの大学では、今回の活動に当たって、災害ボランティアに関する事前学習の機会がありましたか
①あった。 ②なかった。

(9) あなたの大学では、今回の活動に当たって、大学から教員または事務担当者が同行しましたか。
①同行していた。 ②同行していなかった。

3 あなたは、現在自分には下のような力がどのくらいあると思いますか？それぞれの力について、当てはまる
ところ1つに○をつけてください。（右側の欄）

	①とても ある	②まあまあ ある	③あまり ない	④まったく ない
(1)人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、 自分から進んで取り組む力				
(2)目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力				
(3)言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く 行動する力				
(4)目標を達成するために解決すべき問題を見つける力				
(5)目標を達成するための方法やすべきことの順番を考えて準備す る力				
(6)解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力				
(7)自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるよ うに伝える力				
(8)人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞 く力				
(9)自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重 して理解しようとする力				
(10)グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する 力				
(11)集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力				
(12)自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力				
(13)学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たち の仕事と結びつけて考える力				
(14)自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力				
(15)伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力				

**ボランティア活動前に回答してもらった質問は
ここまでです。**

**封筒にこの調査票を保管し、
次ページからは活動後に記入してください。**

ここからはボランティア活動後に 回答してください。

1 あなたは、現地でどんな活動を経験されましたか。それぞれの質問で該当する番号に○をつけてください。

- (1) 仮設住宅等でのサロン活動（住民の関係づくり）：①経験した ②経験しなかった
- (2) 子どもの居場所支援（遊び相手等）：①経験した ②経験しなかった
- (3) 児童生徒の学習支援：①経験した ②経験しなかった
- (4) イベントの手伝い（例：炊き出し、バザー、健康相談会）：①経験した ②経験しなかった
- (5) 引っ越しの手伝い：①経験した ②経験しなかった
- (6) 上で例示した以外の活動を経験された方は、その内容を簡単に記して下さい。

2 あなたは、今回の活動においてどのような困難を感じましたか。それぞれの質問で該当する番号に○をつけてください。

	①とても 当てはまる	②まあまあ 当てはまる	③あまり 当てはまらない	④まったく 当てはまらない
(1) 体力的に困難を感じた。				
(2) 活動以外の生活面で困難を感じた				
(3) 現地の状況にショックを受け、精神的に 困難を感じた。				
(4) 自分の能力という点で困難を感じた。				
(5) 他のボランティアとの意思疎通に困難を 感じた。				
(6) 現地の方々との意思疎通に困難を感じた。				

3 あなたは、現在自分には下のような力がどのくらいあると思いますか？それぞれの力について、当てはまるところ1つに○をつけてください。（右側の欄）

	①とても ある	②まあまあ ある	③あまり ない	④まったく ない
(1) 人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力				
(2) 目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力				
(3) 言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力				
(4) 目標を達成するために解決すべき問題を見つける力				
(5) 目標を達成するための方法やすべきことの順番を考えて準備する力				
(6) 解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力				
(7) 自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえように伝える力				
(8) 人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力				
(9) 自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力				
(10) グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力				
(11) 集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力				
(12) 自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力				
(13) 学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力				
(14) 自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力				
(15) 伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力				

4 最後に、今回の活動に参加しての感想や意見等を、自由にお書き下さい。大学や現地組織による皆さんへのサポートに関する感想、意見、提案等をお書き頂いても結構です。

質問はこれですべて終わりです。ご協力ありがとうございました。

ボランティア活動に参加された学生の皆さんへ 「アンケート調査へのご協力をお願い」

調査主体は...

公立大学協会の「東日本大震災復興学生ボランティア等に関する作業部会」です。
調査の実務は「大阪府立大学 地域連携研究機構 地域福祉研究センター」が行います。

調査目的は...

今回の活動に参加された皆さんは、どんな理由で参加された、どんな方々だったのか。実際にどんな活動をされ、どんなことを感じたのか。今回活動されたことによって、参加者の「さまざまな能力」に変化が生じたのか等を、簡潔なアンケートで調べます。

調査対象は...

公立大学協会と南大阪コンソーシアムの加盟校から今回のボランティア活動に参加された方々と、「いわて GINGA-NET プロジェクト」に参加された学生ボランティアの方々です。

調査の手順は...

この調査には、活動前にお聞きしたい質問と、活動後にお聞きしたい質問があります。**前半部分（1～2 ページ）は活動前にお答え頂き、いったん調査票をこの封筒で保管して下さい。活動後に後半部分（3～4 ページ）をお答え頂き、回収担当者にお渡し下さい。**なお、活動前と活動後でデータを比較する質問もあります。それらは同じ質問ですが、「その時点」におけるお答えを、ご記入下さい。

個人情報の保護は...

このアンケート調査は、無記名で行います。回答は統計的に処理し、結果の公表時に個人が特定されることは、ありません。

調査結果の入手方法は...

公立大学協会のホームページに、掲載する予定です。 <http://www.kodaikyo.org/>

ご回答、お願いします

短時間で答えられるアンケートですので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。
ご協力いただけない方は、配付した者に、このままお返し頂いても結構です。

この調査に関するお問い合わせは、以下までお願いします

大阪府立大学 地域連携研究機構 地域福祉研究センター
専任教員 吉原雅昭 yoshihara@sw.osakafu-u.ac.jp